

## 松川町地域産業推進協議会 第2回企画委員会 会議録

日時：平成24年3月21日（水）

午後6時30分～8時30分

会場：松川町役場 2階 大会議室

第2回目の企画委員会を開催。

今回より地域産業推進協議会へ提案する具体的案件について話し合うため、農業部会、商業部会、工業部会の3部会に分かれワークショップに入りました。

各部会から出された意見をまとめたものを、次頁以降へ記載します。

## 農業部会

<p>●「清流苑」をプロデュース</p>	<p>□人の流れの創作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8時30分までの営業時間のため、懇親会を行っても次に行く場所がない。</li> <li>・ 清流苑から新井商店街へのアクセスをよく。</li> </ul> <p>□資源の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温水の2次利用として、施設栽培を模索してどうか。</li> <li>・ 町内の農産物を利用した食のコンテストを開催して、最優秀賞の料理をレストランで提供してはどうか。</li> </ul> <p>□情報の発信基地としての利用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直売所へ良い商品をと機会ある事に言っているが、改善されていない。</li> <li>・ 本年度、松川町民と自然にやさしい農業連絡会主催の立ち木検討会代表園地の贈答りんごを展示させていただいたが、とても好評であったと聞いている。</li> <li>・ ゲームスペースの利用者が少なく感じる。松川町の農業の歩みの写真、書道・手芸品などの芸術作品の展示などに活用できないか。</li> </ul>
<p>●「みらい」の新たな展開を模索</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光客の滞在時間を延ばす取り組みとして、地元の農産物を利用した農家レストランがあってもよい。</li> <li>・ みらいは農業者の利用が多いが、商・工業者がどのように利用しているかが分からないが、もっと活用してもよいと思う。</li> </ul>
<p>●町民参加型のイベント</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ くだもの狩りの観光客の松川町への滞在時間を伸ばすための施設や工夫が必要。</li> <li>・ 京都の激辛サミットがあると聞いた。町をあげてのサミットを開催してはどうか。</li> <li>・ 軽トラ市、やたい村など、気軽に参加できるイベント。</li> </ul>
<p>●労働力補完と新たな働き手の模索</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1件の農家当りの栽培面積が増えている事もあり、労働力の確保が急務。シルバー人材センターのように、老人ホームやボランティアの方にお手伝いをいただく。</li> <li>・ 福祉（健康）と農産物の栽培の結びつきを行い、食の大切さを知っていただく。減農薬、有機栽培など。</li> </ul>
<p>●人の流れを生む企業誘致</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他の市町村の事例を参考にして企業誘致を行ってほしい。また、農業と相乗効果があり業種であれば更に良い。</li> <li>・ 企業誘致が多く雇用を生む事で人口が増え、結果的に地元の農産物の消費拡大につながる。</li> </ul>
<p>●地産地消への理解と浸透</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町内の飲食店が地元の農産物を積極的に取り扱っていただけるような環境の整備。</li> <li>・ まずは外への発信の前に地元の方へ町内産農産物の良さを知っていただけるように情報発信や取り組みが必要。</li> </ul>
<p>●加工業の充実（味の里への期待）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町のお土産がりんごを始めとした青果が中心なので、お土産のラインナップを増やす。</li> <li>・ 加工品の新開発（例えばりんご酢、りんご茶など）。他の産地に行き参考とするのも方法の一つ。</li> <li>・ 加工工業の活用と生産者の交流と、技術のレベルアップ。</li> </ul>
<p>●新井商店街との交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町民の新井商店街の利用度はどの程度か？マークンカードの利用実績を活用してみてもどうか。駐車場がなく、立ち寄り難い印象を受ける。</li> <li>・ “松川せんべい” “うぐいすもち” など過去に名物商品があった。復活できないか。</li> </ul>
<p>●農業の課題と新たな展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ J Aの助成事業は改植した場合のみの対象であるが、遊休農地に新たに作付けた場合などを対象とすべき。</li> <li>・ 飯島町ではコテージに畑を付けて貸し出しを行っているが町でも検討を。</li> <li>・ 循環型農業</li> <li>・ 発電ができる除草シートが開発された。電気の地産地消も考えるべき。</li> <li>・ ソーラーや水力発電を活用して、施設栽培を研究できないか。</li> </ul>
<p>●情報発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ツイッター、facebook など最新の情報発信ツールの活用。</li> <li>・ 町をあげて観光客へ “おもてなし” をするという雰囲気作り “WELLCOME”。</li> </ul>
<p>●基本的考え（総括）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 統一感・一体感ある町づくり。木曾路や小布施のように案内看板の統一などできることから。</li> <li>・ 町の基本的な考えを柱として、まずは変わる事、変わらない事、町の大切にしたい事などを整理して進める事が肝心。</li> </ul>

## 商業部会

<p>●遊休農地対策 ＜町内ハード事業＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都会からのリタイアした人たちを呼び込み、セカンドライフのための定住対策として遊休農地を提供して活用してもらう。</li> <li>・自然豊かなことを生かした林間教室等で、小学生から高校生の更なる受け入れを検討する。</li> <li>・遊休農地で野菜を作りPRしていく。</li> </ul>
<p>●エネルギー ＜町外ハード事業＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水力発電特区の申請として水力発電を積極的に行い、地元の工業の力を使う。遊休農地の水田を使う。</li> </ul>
<p>●観光 ＜町外ハード事業＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光農園にたくさんのお客が来ても昼食などの受け入れ先がない。大型観光バスの対応ができるくらいのレストランを作る。</li> </ul>
<p>●空き店舗 ＜町外ハード事業＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特産農産物を空き店舗で販売</li> <li>・空き店舗をブースのように区画して貸し出し、新鮮野菜コーナーなどの設置。お土産と一緒に販売。</li> </ul>
<p>●まちづくり ＜町内ソフト事業＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり機能の外部委託化として、まちづくり的なものを外部に委託するなど役場の外につくる。</li> <li>・交流センターみらいを連携のシンボルとして生かす方法を考える。</li> <li>・企画委員会メンバーの交流の場として飲み会が必要。</li> <li>・農商工連携システムの構築というテーマはかなり難しく、実現するにはJAを取り込んでいくことを考える。</li> <li>・松川町民が松川町を知らないことが多いことを感じるので、松川町再発見イベントの開催を企画する。</li> <li>・工業が農業へ参入できる仕組み作りを考える。</li> <li>・町民が地域発展のために動いてもらい、点ではなく面で動くことを考える。</li> </ul>
<p>●情報発信 ＜町外ソフト事業＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セカンドライフタウンの建設として、松川町に行く素晴らしいセカンドライフが待っている施策を考える。特に現役が短いスポーツ選手などをターゲットにする。</li> <li>・口コミで人を呼ぶ仕組みを構築する。例えばfacebookなどを活用し、個人個人のつながりを生かす。</li> <li>・農産物のブランド化を推進するためのタイアップ企画を考える。</li> <li>・農産品認定制度の制定</li> <li>・松川町には素晴らし観光農園が多いが、扱っている種類だけでなく、例えばりんごの甘さ、硬さなどの特性などを明示したマップ“農園の味マップ”を作成し、観光客の呼び込みに活用。</li> <li>・テレビ局に働きかけ、中央のドラマの舞台として利用してもらうことで必ず誘客につながる。</li> <li>・空き店舗の活用として、趣味の家などをしてくれる人を町外から幅広く募集をする。</li> <li>・マスコミ等を活用した徹底した情報発信を行い、松川町の認知度を上げる。</li> <li>・松川町のみ観光だけでなく広域的に考え、近隣の市町村の観光情報を熟知して利用し、信州に来る際には松川町にも寄ってもらえることを考える。</li> <li>・週1回程度の定期的な農産物の青空市開催。</li> <li>・松川町の農産物のブランド化を推進するためのタイアップ企画。</li> <li>・ハード的なもので言うと少しの名所を作ってもPRにはならないが、他にはない規模の物を作ればPRになる。何をするにしても資本が必要になる。</li> </ul>

## 工業部会

●地産地消	<ul style="list-style-type: none"><li>・食品だけでなく道路整備などのインフラ整備も地元を活用すれば雇用の確保にもなる。入札が悪いことではないがフェアではない。</li><li>・この地域は、森林、林業が生かされていない。遊歩道だけでなく、片桐松川沿いにオートキャンプ場を整備することや薪割り体験など自然を生かしてはどうか。</li><li>・交流人口を増やすためにクラインガルテン等、インターに近く有利ではないか。</li></ul>
●自然エネルギー	<ul style="list-style-type: none"><li>・公共施設や工場の屋根を借り、ソーラーパネルを設置し、売電する。</li><li>・自然エネルギー特区申請をする。100%電力自給する町に。</li><li>・建築基準法でソーラーパネル設置義務化。</li><li>・ソーラーシートを遊休農地に設置すれば、除草がいらない。</li></ul>
●特産品	<ul style="list-style-type: none"><li>・工業としてできることは、ブランド認定の評価・支援、基準（安全・安心）、管理はできる。</li><li>・バイオ技術を活用し、エビを養殖したらどうか。加工でき需要がある。</li><li>・栄養価の高い胡桃を使ったチョコレート。保存が効きお土産に最適。</li><li>・おいしい水、空気を使った都市型農業。価格・設備が課題だが、バイオ技術を活用し水耕栽培はどうか。</li><li>・ドライフルーツは加工品として最適。</li><li>・片桐ダムにいる外来種レイクロブスターを活用。（北海道摩周湖では塩茹で全国発送している。）</li></ul>
●宣伝	<ul style="list-style-type: none"><li>・インターから客を降ろすことが重要。それには、客が何を必要としているのかマーケティング調査、来てもらう仕組みづくりをする必要がある。</li><li>・松川町だという景観は魅力となる。</li><li>・インター近辺に大きな商業施設（売るところ）が必要。</li><li>・他地域の商業施設とタイアップしたらどうか。（ブースを設けるなど）</li></ul>
●福祉	<ul style="list-style-type: none"><li>・福祉は需要があり、有料福祉センター（グループホーム）を作り、全国から募集する。雇用も生まれ、居住食に医療も必要となってくる。</li></ul>
●少数意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・カジノで活性化</li><li>・本来は、活性化して税金がしっかり払えるのが望ましい。町が呼び水で税金を投入することは必要。</li><li>・農地と工場用地（非住宅地）を同評価とする。（農作業場と工場・倉庫は同じ用途に）</li></ul>